

Óbidos

について



オビドス

ブーゲンビリアとスイカズラのからまる白い家並みが美しいオビドスの村は、ポルトガル初代国王アフォンソ・エンリケス（Afonso Henriques）によって、1148年にムーア人の手から奪回されました。

その後、ディニス1世（D. Dinis I）は、この地を聖王妃として知られる王妃イザベル（Rainha Santa Isabel）に贈与しました。

以来1883年にいたるまで、オビドスとその周辺一帯は、代々のポルトガル王妃の所轄地となっていました。村は周囲を中世の城壁に囲まれ、ディニス1世が再建したムーア人の城を頂いています。

この城は現在、ポザーダ（Pousada）となっています。このオビドスの姿は、ポルトガルの中世の城塞の典型を示す好例となっています。かつては、村へ入るには南のサンタ・マリア門（Porta de Santa Maria）を通らなければなりません。門は18世紀のアズレージョ（Azulejo）で美しく飾られています。城壁は日没時には黄金色に染まり、その内側に入ると、たちまち陽気な中世の雰囲気にも包まれます。曲がりながら続く小道、青や黄色で縁取りされた白壁の家々。

マヌエル様式の窓や戸口を見れば、16世紀の国王マヌエル1世（D. Manuel I）がこの地にも大きな建築物を作り上げたことに思いいたります。そして、色鮮やかな花々や緑があちこちにあふれています。

見逃してならないのは、サンタ・マリア教区教会（Igreja Matriz de Santa Maria）、美しいサン・マルティニョ礼拝堂（Capela de São Martinho）、城壁の外のセニョール・ダ・ペドラ教会（Igreja do Senhor da Pedra）です。

一年を通してイベント・プログラムがこの小さな町を盛り上げているが、最も人気があるのは間違いなく国際チョコレート・フェスティバル、中世の市場、オビドス・クリスマス・ビレッジ（Óbidos Vila Natal）である。また、FOLIOオビドス国際文学フェスティバル、SIPOオビドス国際ピアノ週間、LATITUDES文学と旅人フェスティバル、最近ではオビドス・ヴィラ・ゲーミングも特筆に値する。

2015年からはユネスコ文学創造都市に認定されている。

問い合わせ先

ウェブサイト：<http://www.obidos.pt>